

日本産業衛生学会

第84号 2025年8月7日

# 産業医部会会報

公益社団法人 日本産業衛生学会 産業医部会事務局  
〒160-0007

東京都新宿区荒木町20-21 インテック88ビル内

TEL 03-3356-1536

FAX 03-5362-3746

e-mail:sanei.4bukai@nifty.com



## 巻頭言



## 『地域に根ざし、現場に寄り添う産業保健を』

日本産業衛生学会 九州地方会長 江口 尚

このたび、2025年3月より九州地方会長を拝命いたしました。微力ながら、産業衛生のさらなる発展に貢献できますよう、誠心誠意努めてまいります。

近年、労働環境を取り巻く状況は大きく変化しております。メンタルヘルス対策をはじめとした健康管理、働き方改革など、産業保健専門職に求められる役割は拡大の一途をたどっています。こうした社会的要請に応えるためには、地域に根ざした知見と経験を活かし、実践的な取り組みを積み重ねていくことが、これまで以上に重要となってまいります。

本年度の九州地方会では、以下の3点を重点項目として活動を進めてまいります。

### 1. 実務と学術を結ぶ学びの場の充実

多職種が連携し、知識と経験を共有するための機会を意識的に作っていきたいと考えています。地域課題に即したテーマを取り上げ、現場に活かせる実践的な知見の普及を目指します。

### 2. 若手育成とネットワーク強化

将来の産業衛生を担う若手会員の育成に注力し、キャリア支援や職種を超えた交流機会の創出を推進いたします。地域に根ざした産業保健活動の継承と発展を目指し、持続可能な基盤づくりに努めます。

### 3. 全国との連携と地域からの発信

2027年5月26日～29日には、北九州国際会議場にて第100回日本産業衛生学会が開催されます。九州地方会としては、大会長を務められる堀江正知先生と連携し、この記念すべき大会の成功に向けて、地域の力を結集して準備を進めてまいります。

現在、九州地方会には235名の産業医部会員が在籍しており、各地域において実践的な支援活動に取り組んでおられます。また、各地区の医師会の先生方には、特に事業場規模が50人未満の事業場等に対して、地域産業保健センター等を通じた活動を通じ、地域における産業保健の基盤を力強く支えていただいています。こうした活力あるネットワークこそが、地方会活動の大きな推進力であると確信しております。

今後は、産業医部会や地域の医師会とのさらなる連携を深め、現場の実践に根ざした情報交換や相互支援をいっそう促進してまいります。

多様な産業構造と地域特性を有する九州だからこそ可能となる産業保健の在り方を、皆様とともに模索しながら、一人でも多くの労働者にとって真に役立つ産業保健サービスの提供を目指してまいります。

今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## 日本産業衛生学会全国協議会のご案内

## 『第35回全国協議会(in徳島)開催に向けて』(第2報)

(四国地方会)

第35回日本産業衛生学会全国協議会 事務局  
住友重機械工業株式会社 愛媛製造所

杉 原 由 紀

第35回全国協議会を2025年11月27日(木)～11月29日(土)、徳島市のあわぎんホールとシビックセンターにて開催いたします。

今回のテーマは「すべての労働者が元気に働ける産業保健をめざして」としました。すべての労働者がそれぞれ置かれた立場で、最大限に能力を活かし、いきいき元気に働けるために、私たちは何を指すべきか。この産業保健に関わるものにとっての永遠のテーマについて、2つのメインシンポジウム、その他シンポジウム、教育講演等を準備中です。

また、11月27日(木)には、社会医学系専門医制度共通講習必修3単位の講習のほか指導医講習会、日本医師会認定専門医の実地研修(工場見学等4か所、協議会会場での講習会2～3)も予定しています。一般演題の発表はポスターでの発表を予定していますが、各部会から部会長賞も選考されます。一般演題へのエントリーもぜひ積極的にご検討ください。

徳島は自然豊かなところですよ。鳴門の渦潮、大塚美術館をはじめ、祖谷のかずら橋や徳島市内には眉山など、観光名所もたくさんあります。また、阿波尾鶏、鳴門金時などの食材も豊富です。懇親会では皆様に阿波踊りを体験していただく予定です。「踊る学会に、見る学会、同じ学会なら心躍らにゃ損々」と、一人でも多くの皆さんの参加を歓迎するとともに、より良い研鑽の場にしていただけますよう、企画運営委員一同、準備に取り組んでいます。

ぜひ、徳島にお越しください。

<https://sanei-kyougikai35.com/>



全国協議会ポスター

## 日本産業衛生学会全国協議会 産業医部会自由集会のご案内

## 『産業医部会自由集会へ行こう』

(四国地方会)

住友重機械工業株式会社 愛媛製造所 杉原 由紀

2025年11月27日(木)～11月29日(金)開催の第35回全国協議会会期中に、産業医部会自由集会を行います。

産業医になるなら日本医師会認定産業医資格があれば十分？ いやいや、もちろん、やりがいと手ごたえを持って仕事はしたいし、会社からも従業員からも、契約先からも頼りにされる、求められる産業医でありたい。

そのためには、何を研鑽すればいいのか、どこを目指していくといいのか、一緒に考えてみませんか。産業医部会はみなさまと一緒に考え、またお手伝いできることもたくさんあります。ぜひ産業医部会自由集会にお越しください。

日 時：11月27日(木) 18:00～19:00(予定)

会 場：あわぎんホール \*詳細は第35回全国協議会ウェブサイトをご確認ください。

<https://sanei-kyougikai35.com/>

テーマ：「求められる産業医になるために、目指すものとは」

演 者	真鍋 憲幸	三菱ケミカル株式会社広島事業所
	深井 恭佑	株式会社リードウエル
	長谷川将之	日本製鉄株式会社
指定発言	宮本 俊明	(産業医部会 部会長)
座 長	塩田 直樹	(中国地方会)
	杉原 由紀	(四国地方会)

今回の自由集会は、中国地方会と四国地方会が担当です。



左から、塩田直樹(中国地方会) 杉原由紀(四国地方会) 齊藤恵(四国地方会) 真鍋憲幸(中国地方会)

## 日本産業衛生学会のご案内

『第 99 回日本産業衛生学会 (大阪)』  
開催案内 (第 1 報)

(近畿地方会)

第99回日本産業衛生学会 企画運営委員長  
合同会社森口産業医事務所

森 口 次 郎

第99回日本産業衛生学会を2026年5月27日(水)～30日(土)の4日間、グランキューブ大阪(大阪国際会議場)にて開催します。今回は近畿地方会が担当し、関係者一丸となって準備を進めています。

本学会は、働く人々の健康課題に対し、実務と学術の専門家が連携して対応してきたという特色があります。近年のフリーランスの増加やデジタルトランスフォーメーション、遠隔技術の発展などにより産業保健を取り巻く環境は大きく変化し、その役割はますます重要になっています。効果的な対策にはエビデンスの構築と職場への実装が不可欠であり、実務と学術のさらなる協働が求められます。

今回は53年ぶりに二名体制で企画運営委員長を務めます。実務の森口次郎と学術の林朝茂先生が連携し、大会テーマは「すべての働く人への産業保健—実践と学術の協働で挑む—」としました。大会ポスターには協働を象徴する「握手」をモチーフとし、意気込みを込めています。第100回(2027年)、100周年(2029年)を控えた今、産業保健の将来を考える機会となる学会を目指します。

会場の大阪は、食文化や歴史、観光地に恵まれ、近隣府県へのアクセスも良好です。梅雨入り前の爽やかな時期に、多くの皆様にご来場いただき、対面での交流や意見交換を深めていただければ幸いです。全体懇親会は若手中心の実行委員が熱意をもって準備しておりますので、ぜひご参加ください。また、リモート希望にも応えるべく、シンポジウムや教育講演はオンデマンド配信を予定しています。

皆様の演題応募とご参加を心よりお待ちしております。

<https://convention.jtbcom.co.jp/sanei99/index.html>



学会ホームページイメージ



## 学会賞受賞によせて



## 『学会賞を受賞して』

(北陸甲信越地方会)

信州大学 医学部 衛生学公衆衛生学 野見山 哲生

第98回日本産業衛生学会の総会において、学会賞を授与され、また、学会賞受賞講演の機会を頂きました。

大学を卒業した1992年に本学会に入会した後は、化学物質の健康影響に関する実験研究、疫学研究を行ってきました。産業化学物質による中毒例や健康影響は、戦後復興を遂げた日本の産業化の光と影、影の部分であり、多くの先達達が産業現場で発生する中毒や健康影響に対し、化学物質との因果関係、発症機序の解明に取り組み、発症予防に向けた労働衛生管理、法律による規制等の対策を講じてきました。このような対応により、産業現場における化学物質の濃度は低減し、中毒の発生数も減少しました。一方で、7万とも8万とも言われる化学物質は、ここ十数年、オフセット印刷に携わる作業場で発生した胆管がんを始めとした、過去に報告の無い化学物質が起因した健康影響の症例が報告されています。そのような状況で、化学物質の自律的管理は昨年からは緒についたばかりであり、濃度基準値という新たな基準値の設定によるその効果はまだ形となって表れているとは言えません。今後も、化学物質の健康影響に関する研究を更に進め、許容濃度等の策定に係わってまいりたいと思います。

また、生涯のライフワークとしてきた小規模事業所の産業保健は、2002年、自身の研究拠点が信州に移った後から、本格的に取り組んでおります。専属の産業医のいる企業と違い、小規模事業所では、資金や人材の不足などもあり、働く人にもたらされる産業保健のリソースと恩恵は少ないと感じられることも多々見受けられます。今後更に自身のライフワークとしての取り組みを行いながら、全ての働く人に産業保健の光があたるよう、現場に立ち、活動したいと考えています。

最後になりましたが、今後も、今までの経験に加え、新たな経験を積み重ね、今後、更に研究と実践に精進して参りたいと思います。今回の受賞にあたり、お世話になりました多くの皆様に御礼申し上げます。また、本産業医部会報に執筆する機会を頂きましたことに、深く御礼申し上げます。



授賞式の様子

## 学会奨励賞受賞によせて



## 『日本産業衛生学会奨励賞を受賞して』

(東海地方会)

ヤマハ株式会社 山 本 誠

今回現場の産業医として奨励賞という栄えある賞をいただくことができました。今までの活動を振り返ると、学会で学んだことが私の大きな支えになっていたことを再認識出来ました。いくつかの経験をご紹介します。

専属産業医になりたての頃、健康会計に関するシンポジウムを聞きました。そこで自社の健康管理部門の経費やサービスの価値を会計で見える化し、不景気の際、会社への説明材料をあらかじめ揃えることが出来ました。さらに学会で健康経営優良法人(ホワイト500)が選定されることを知っていたので、あらかじめ関係しそうな健康管理に関する上位文書や関連データをまとめておいたところ、たまたま健康経営銘柄調査書を記載する役割を与えられ、ホワイト500を取得することができました。

また、専門医を取得したころ、当部会主催の産業保健プロフェッショナルコース(Pコース)に参加しました。ちょうどメンタルヘルス対応で困っていたところ、講師だった三柴丈典先生の講義で、会社および産業医が行う役割が明確になり、難しい復職案件にも責任ある対応をすることで、社内の信用を得ることが出来ました。さらに研修のディスカッションおよび懇親会での先生方との会話から、産業医としての中立性や、支援の最終形態は自律などのキーワードが、産業医活動の支えとなりました。

振り返ると、諸先輩方のお導きで82回総会の実行委員を皮切りに、23回、31回全国協議会、92回、97回総会、2017年から東海地方会事務局長、Pコース企画運営委員長、広報委員など拝命しました。ボランティアな活動ながら、自発的かつ魅力的な皆様との人脈が出来、自分の能力が高まりながら社会貢献出来たのは本当に得難い経験だったと思います。

奨励賞にご推薦いただいた、佐藤裕司先生、西賢一郎先生、産業医のイロハをご指導いただいた宮本俊明先生、加藤憲忠先生、専門医の指導医である東敏昭先生、産業生態科学研究所でお世話になった、森晃爾先生、堀江正知先生、廣尚典先生、大和浩先生、大神明先生、産業医プロフェッショナルコース初代企画運営委員長の浜口伝博先生、東海地方会の斉藤政彦先生、石川浩二先生、遠田和彦先生、上原正道先生、産業医科大学産業生態科学研究所労働衛生工学研究室の故田中勇武先生、明星敏彦先生、東秀憲先生、大藪貴子先生と多くの先輩方、いつも支えてくれる同僚、同期、後輩と家族に深く感謝致します。

## ベストGP賞受賞によせて



## 『第16回ベストGP賞受賞に寄せて』

(関東地方会)

三菱ふそうトラック・バス株式会社 小笠原 隆将

第98回日本産業衛生学会においてGPS報告「化学物質の自律的管理に伴う事業場内での化学物質等管理要領の作成と運用について」で、第16回ベストGP賞をいただきました。

当社はトラック・バスの開発・製造（メーカー機能）とともに販売・整備（ディーラー機能）を行っている会社で、メーカー機能は神奈川を中心とした関東圏に、ディーラー機能は北海道～九州に全国約180か所あります。メーカー・ディーラー機能を合わせて考えると、いわゆる単一企業小規模分散型事業場に該当します。

当社の課題として、全国事業場内の各部門・作業場を含めた化学物質管理者が未選任、化学物質管理の教育実施が計画的でなかったこと、非常に限られた安全衛生スタッフのリソースでの対応、という3点があげられました。

GP報告では主に安全衛生教育からルール of 明文化、および社内でのコンセンサスを得るまでのプロセスを記載しました。化学物質管理の教育では、主にSDSの構成・活用法と、化学物質の選定から廃棄までの管理体制の概要を教育しました。特に具体的な管理体制については、関係者ごとの管理項目と時期を明確化し、教育をおこなっています。そのうえで要領原案を作成し、部門代表と協議の上、最終化しました。

特に当GPの特徴としては、スモールステップでの実施、手順・役割・責任範囲の明確化、業務負荷の均等化、関係部門の質問・改善提案を討議する場の確保をいわゆる法的な産業保健上の役割にとらわれず、会社組織と働く場所をよく知っている者が対応した、という点にあると考えております。

要領の運用開始後は、化学物質管理者の小委員会が立ち上がり、定期的に化学物質管理についての状況確認とあわせて、化学物質管理に関する質疑も化学物質管理者間で行われており、結果的に現場の化学物質管理に関する知見・スキルが向上しております。

今回のベストGP賞受賞に際して、弊所属部門から、ありがたくもお褒めの言葉、喜びの言葉を頂いております。現在は当要領の作成および日本産業衛生学会でのポスター発表の時点でも言及していた当社が製品の化学物質を選定（開発時点での選定・購買プロセス時点など）する時点で管理するシステムを会社のプロジェクトベースで対応しているところです。今回の受賞を喜びつつ、今後とも継続的改善に努めていく所存です。



作業現場での掲示例

## 学術委員会 若手論文賞受賞によせて



## 『第10回若手論文賞を受賞して』

(九州地方会)

産業医科大学 産業生態科学研究所  
呼吸病態学研究室

友 永 泰 介

この度、日本産業衛生学会学術委員会より、第10回若手論文賞という荣誉ある賞をいただきました。受賞論文は、“Investigation of pulmonary inflammatory responses following intratracheal instillation of and inhalation exposure to polypropylene microplastics”で、Particle and Fibre Toxicology (2024年8月)に掲載されました。内容はマイクロプラスチックのうちポリプロピレンの吸入ばく露試験から、急性影響の最小毒性量(LOAEL)を示し、またポリプロピレンの気管内注入試験では、遺伝子解析やタンパク解析を通して好中球性の炎症が誘発されること示しました。マイクロプラスチックは海洋で問題となっていますが、大気中でも観測されており一般環境分野で注目されています。一方で労働衛生分野においても、プラスチック加工やリサイクル工程でマイクロプラスチックが発生し、これらの作業環境では一般環境よりも高い濃度で存在することが想定されます。マイクロプラスチックは肺内に取り込まれても分解されにくい性質から長期間肺内に沈着し、慢性的な影響を引き起こすことが考えられます。つまり、労働衛生分野においてマイクロプラスチックによる生体影響を調べることは重要な課題であり、本論文は重要な知見を提供できると思っています。他方、マイクロプラスチックは種類や形状、サイズなど様々な特徴を有することから、どのような特徴が肺に影響を与えるのか調べる必要があります。またマイクロプラスチックの長期的な影響を調べることも重要な課題であり、今後も研究を積み重ねていく所存です。

本受賞論文は、研究代表者として研究計画や研究費の申請を行い、様々な困難はありましたが、多くのご指導ご支援をいただきながら、3年間の研究期間内に論文の掲載までに至った自分にとって思い出深い論文です。日々ご指導いただいております森本教授、吸入ばく露試験の多大なるご支援を賜りました東教授をはじめ、共同研究者の先生方や研究をサポートしていただいている皆様に心から感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も産業保健に貢献できるよう努力を重ねていきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



授賞式の様子





## 『若手論文賞受賞の喜び』

(九州地方会)

産業医科大学 産業生態科学研究所  
産業保健経営学研究室

森 貴 大

この度、第10回若手論文賞を受賞いたしました。”若手”研究者のうちに目標としていた賞をいただけたことを、大変光栄に思っております。受賞対象となった論文はJournal of Occupational Healthに採択されました”Health and productivity management initiatives to promote worker health and improve the workplace environment at the Fukushima Daiichi nuclear power plant (福島第一原子力発電所における健康経営の取り組み)”です。まずは、本取り組みならびに論文執筆にあたり、ご指導・ご助言を賜りました先生方、また東京電力や関係会社の皆様に、心より御礼申し上げます。

本研究は、長期化が見込まれる福島第一原子力発電所(通称:1F)の廃炉作業に従事する労働者の健康増進活動に焦点を当て、1Fにおける健康経営の導入と推進の過程を取りまとめたケーススタディになります。1Fは、多重下請け構造が特徴であり、元請企業のもとに一次から最大で六次下請けまで、多くの関係会社が構内で作業を行っています。このような環境において、構内で働く労働者の健康を「守る」だけでなく、「維持・増進」していくことは、長期にわたる廃炉作業を安全かつ着実に進めていく上でも、極めて重要な課題といえます。

こうした背景のもと、私たちは元請事業場を対象に1F独自の健康経営度調査票を作成し、その結果に基づいて優秀事業場を選定、賞状を授与するという取り組みを行ってまいりました。実際に受賞された事業場の方々からは多くの喜びの声を頂戴し、社会的注目を受ける現場において、前向きな取り組みを進める意義を改めて実感した次第です。

現時点では、下請け事業場(関係会社)まで幅広く展開できているとはいえないため、今後はより広範に健康増進の活動を展開していけるように、引き続き試行錯誤していきたいと考えております。

また、個人的には量的研究を中心に論文執筆を行ってきましたが、本研究は初めて取り組んだケーススタディであり、自分の思い通りには筆が進まず苦勞した部分も少なくありませんでした。それだけに、こうして論文が掲載され、さらに念願であった賞までいただけたことは、これからも研究を励む身として、かけがえのない経験になりました。

約6年間の専属産業医を経て、2025年4月より現在の所属にて教育者・研究者としてスタートを切ったばかりです。今回の受賞を糧に、今後も産業保健に少しでも貢献できるように努力してまいります。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



受賞講演中の様子(撮影:産業医科大学 上田 陽一 学長)

## 日本産業衛生学会産業医部会長賞受賞によせて

『病院事務局職員の  
参加型職場環境改善支援ツール』

(関東地方会)

独立行政法人 労働者健康安全機構  
労働安全衛生総合研究所 過労死等防止調査研究センター

吉 川 徹

このたび、第98回日本産業衛生学会(仙台)において、医部会長賞という栄誉ある賞を賜り、身に余る光栄に存じます。選考に携わってくださった先生方、そして日頃よりご指導・ご協力をいただいております共同研究者ならびに関係機関の皆さまに、心より御礼申し上げます。

今回の受賞を通じて、医部会賞が現場の課題に向き合い、その解決に向けた実践的な手法の探求を重視していることを、改めて実感いたしました。私たちの研究もまた、産業医・産業保健専門職の専門性の価値を共有し、現場に根ざした取り組みを大切にしてきたものであり、現場主導の研究の重要性を再認識する機会となりました。

発表演題「病院事務局職員における過重労働防止と円滑な業務運営のための参加型職場環境改善支援ツールの開発」では、これまで十分に注目されてこなかった病院事務局職員に焦点を当てました。医師や看護師などの医療専門職と比較しても、精神障害や自殺を含む過労死等の事案は少なくありませんが、その業務負担や健康影響に関する研究は乏しく、十分な対策が講じられてきたとは言いがたい状況があります。

本研究では、労災病院の事務局職員を対象としたヒアリング調査および一般病院を含めた質問紙調査とツールの実践的開発研究を通じて、業務の負担感や健康障害リスクの実態を把握し、改善に向けた視点を整理いたしました。その知見をもとに、「いきいき職場づくりのためのアクションチェックリスト(病院事務職場版)」および「職場環境改善の手引き」を作成し、協力施設での実地検証も踏まえて、実践的な支援ツールとして取りまとめました。これらは過労死等防止調査研究センターのホームページにて無料公開しておりますので、ぜひご活用ください(<https://records.johas.go.jp/article/222>)。

病院事務局職員は医療の円滑な運営と質の高い医療提供を支える基盤となる存在です。実際には医療機関での産業医や産業保健活動の展開には課題認識やリソースなど難しい課題もありますが、職場環境の整備は医療全体の質の向上にもつながるはずです。また、病院事務局職員だけでなく、産業医がリーチしにくい業種や職場に、その特性に応じたテラーメイドな産業保健活動を展開することで、産業医・産業保健の価値は一層高まると考えています。今後も、現場に根ざした研究を通じて、実効性ある支援のあり方を模索し続けたいと思います。

病院事務局職員のための  
職場環境改善ツール冊子

懇親会での受賞式にて宮本俊明産業医部会長と

## 第 98 回 日 本 産 業 衛 生 学 会 (仙 台)



## 『第98回日本産業衛生学会開催報告』

(東北地方会)

第98回日本産業衛生学会 企画運営委員長  
東北大学環境・安全推進センター

黒 澤 一

第98回日本産業衛生学会の開催は、東北地方会がお引き受けし、去る5月14～17日に仙台で開催、無事に終了することができました。多くの皆様のご参加と活発な議論と交流で、大変賑やかな学会となりました。産業医部会をはじめとする参加者の皆様および関係各位に深く感謝し御礼を申し上げる次第です。実を申しますと、本学会をお引き受けした当初、頼みの学会場、仙台国際センターが半分使えないことが判明し、一度は仙台での開催をあきらめました。全体の収容能力の半分以上をもつ会議棟が改装工事のために使えず、残る展示棟だけでは収容に限りがあるからです。ですが、結局、仙台市側の強いご支援もあって、市の施設の仙台緑彩館、仙台市博物館、および東北大学の施設である萩ホールを使わせていただく目途がたち、なんとか開催にこぎつけた次第でした。分散会場になってしまいましたし、会場によっては部屋が狭く多くの入室希望者があふれてしまったことなど、大変なご迷惑とご不便をおかけしてしまいました。しかしながら、そのような中、すべての会場、機器展示場およびポスター会場に参加者が集い、周辺の自然の環境を楽しみながら移動くださっている様子が伝わってきて、本当に助けられた思いでした。プログラム面では、公募で多くのシンポジウムの申し込みが集まりました。その他、プログラム委員会を中心に、メインシンポジウムを3つ企画しました。最先端のテクノロジーを東北大学の研究者に紹介してもらおう企画、ゲノム情報などによる個別化ヘルスケアと産業保健の企画、大災害についての企画、でした。どれもパネリストおよび座長の皆さんのおかげで、充実した内容にすることができました。後からオンデマンドで聴講された方もいらっしやったのではないのでしょうか。その他、日本医師会の松本会長をお迎えしての特別講演、100周年特別企画、市民公開企画等のプログラムを組ませていただきました。杜の都仙台の自然の他、学会後の夜のひとときも魅力の一つだったと思います。最終日が仙台の青葉まつりと重なる関係上、全体懇親会は木曜日に開催させていただきました。参加者500人を超える盛大な会となり、ユネスコ世界遺産となった西馬音内盆踊りや学会有志によるジャズ演奏などをお楽しみいただきました。牛タンや寿司などの仙台の味のほか、東北の日本酒もたくさんご賞味いただけたかと思います。次回の第99回は大阪、記念すべき第100回は九州です。なんとか、無事にバトンを渡すことができたかはころもとありませんが、ほっとする気持ちでいっぱいです。重ねて皆様のご支援ご協力に感謝を申し上げる次第です。



## 第 98 回日本産業衛生学会の風景



青葉山公園仙臺緑彩館会場



仙台博物館会場



伊達政宗公像



懇親会での演奏会



総会にて次期99回学会の紹介



武林新理事長ご挨拶

懇親会で提供されたお酒のリスト

日高見 超辛口純米酒	愛宕の松 純米吟醸 ささら	萩の鶴 雄町 純米吟醸	乾坤一 純米吟醸 酒未来
伯楽星 純米吟醸	宮寒梅 純米大吟醸	綿屋 純米大吟醸 黒澤米 亀尾	山和 純米吟醸 吟のいろは
浦霞 No12 純米吟醸	阿部勘 純米吟醸 赤版		





## 『産業医部会フォーラム開催報告』

(東北地方会)

公益財団法人 福島県労働保健センター 相 川 稜 太

第98回日本産業衛生学会において、産業医部会フォーラム「高齢社会における地域保健・職域保健連携のありかた」に演者として登壇させていただきました。わが国における保健事業は独立した複数の制度に基づいて行われており、退職や転職により保健事業の継続性が途絶えてしまうことが指摘されてきました。本フォーラムでは、今後望まれる連携のあり方について地域保健、職域保健それぞれの立場から発表の後、討論が行われました。

1 題目は私から「地域・職域連携推進事業の歩み」と題して、国が推進する「地域・職域推進連携事業」の枠組み、先進事例および課題について講演させていただきました。

2 題目はパナソニック健康保険組合の南紗也加先生から「職域保健の立場から現在の不安、連携への期待」と題してご講演いただきました。職域保健の現場での取り組みを具体的にお示しいただくとともに、従業員自身が在職中から自律的に健康管理を行えるような取り組みを推進していく必要性についてご説明いただきました。

3 題目は神栖産業医トレーニングセンターの田中完先生から「地域基幹病院と産業医センターの連携によるこれからの地域職域連携」についてご講演いただきました。地域基幹医療機関に産業医センターを併設することで得られる「医療資源の効率的提供」「医療機関の収入源の多元化」「産業保健スタッフの育成」「健康管理システム等の共同利用・健康情報の引き継ぎ」といったメリットについてご説明いただきました。

討論では、地域・職域連携の副次的効果、保健サービスのアクセスにつなげるための周知方法、地域・職域連携推進協議会においてイニシアチブを取れる（両分野の知見を有する）医師の必要性などについて活発な意見交換が行われました。

最後になりましたが、座長の各務竹康先生、深井恭佑先生、学会企画運営委員の皆様、参加者の皆様に心から御礼申し上げます。



産業医部会フォーラムの様子



## 『第98回日本産業衛生学会開催報告 シンポジウム7 模擬裁判』

(東北地方会)

株式会社東北村田製作所 松 本 理

2025年5月16日、仙台国際センターにて開催された第98回日本産業衛生学会では、日本産業保健法学会との共同企画として「模擬裁判」が実施されました。この企画は、実際の労働現場で起きた裁判例、特にメンタルヘルス不調と休復職に関わる事例を元にした架空の事例を用い、労働者側・企業側双方の弁護士と医師らが法廷形式で議論を交わします。会場での聴講は事前予約制で、約200名の枠が一瞬で埋まる人気のシンポジウムでしたが、事前の参加者の期待に十分にこたえる熱い議論が交わされました。

本事案は伊藤忠商事事件(東京地裁平成25年1月31日判決 労判1083号83頁)を題材とし、約4000人規模の総合商社で長時間労働を背景に精神疾患を発症し休職した総合職として部長を務めるX氏の復職可否が争点となりました。労働者側は、主治医役の川上慎太郎先生(ここあすクリニック市ヶ谷)が「復職支援プランを作成し基準を設ければ復職は可能だった」と述べ、退職処分 の 不当性を主張。労働者側弁護士の砂金直美先生(仙台第一法律事務所)は「休職原因は消滅していた」とし、現状の回復や業務負荷評価の妥当性、柔軟な対応の必要性を強調しました。一方、会社側弁護士の須藤惇先生(弁護士法人はくと総合法律事務所)は「復職できることの立証がなされていなかった」と主張し、産業医役の大林知華子先生(Actwith株式会社/ちかメンタルクリニック)はトライアル出社中の様子から復職困難の根拠を説明。会社側はX氏の一般職への配置転換拒否や病状改善の不十分さも指摘しました。

今回、初めての試みとなった医師尋問でも、自身がその立場になったらどうするかを視聴者に問いかける真に迫った演技が見られました。議論がやや難しくなった際には、座長を務められた倉重公太朗先生(KKM 法律事務所)、平野井啓一先生(株式会社メディカル・マジック・ジャパン)による解説も入り、非常に学びの多いシンポジウムとなりました。

今回の模擬裁判でも、改めて医学的あるいは法的な正しさだけではなく、人と人との関わりとして真摯に、誠実に対応しお互いの納得感を生み出していくプロセス、腰を据えてそこに関わっていく専門家としての姿勢、公にその理性的な手続きを示せるように日々の課題に取り組む重要性が示されたように思い、身の引き締まる思いを感じました。

次回も参加させていただくことが楽しみです。まだ参加したことがない会員の方がいらっしゃいましたら、次回はぜひ会場に足をお運びください!



シンポジウム7企画メンバーにて



## 『シンポジウム9「医師の働き方改革における長時間労働医師への健康確保措置－法制化から1年、現状と課題－」開催報告』

(東北地方会)

石巻赤十字病院 荒川 梨津子

2025年5月14～17日に仙台で開催された第98回日本産業衛生学会。そのプログラムの中から、シンポジウム9「医師の働き方改革における長時間労働医師への健康確保措置－法制化から1年、現状と課題－」の開催報告をさせていただきます。

ご存じの通り、2024年度より医師の働き方改革の新制度が開始されました。本シンポジウムは順天堂大学の谷川武先生と産業医科大学の堀江正知先生を座長にお迎えし、医師の働き方改革における面接指導の現状と課題について、5名の演者の先生がお話しく下さいました。開催時間前から超満員で、立ち見の方も多く、医師の働き方改革に多くの方が関心を寄せていることがうかがえました。

まず和田裕雄先生（順天堂大学）より、「長時間労働医師への健康確保措置に関するマニュアル」にも紹介されている精神運動覚醒度検査（Psychomotor Vigilance Test / PVT）について解説いただきました。亀田義人先生（順天堂大学）や黒澤一先生（東北大学）からは、ご所属の大学病院での面接指導体制についてお話しいただき、Googleフォームの活用やオンラインでの面接実施など、面接指導実施医師・面接指導対象医師双方に負担が少ない面接の方法をとられている点をご紹介いただきました。黒澤先生は、面接指導を担う先生方へのサポート体制も重要である点を強調されており、特に就業上の措置内容に関して面接指導実施医師がお一人で悩まないように、産業医が連携しやすい体制を整えておくことが必要であると述べられていました。堤明純先生（北里大学）からも同様に、面接指導実施医師のサポート（面接実施の支援やアドバイスなど）の重要性のお話があったほか、面接指導に基づく措置が適切に行われる仕組みづくりが大変重要であることをお話しいただきました。一方、小川真規先生（自治医科大学）は、面接指導に否定的な姿勢である医師が少なくないことから、面接指導のマネリ化や、面接指導を避けるために時間外労働時間を過少申告する医師も存在するのではないかと懸念を示されました。最後に藤川葵先生（順天堂大学）より、今後は働き方改革とともに地域医療構想の実現および医師偏在の対策を進めていき、医師だけでなく医療従事者の働き方改革を目指していくことを追加発言としていただき、本シンポジウムは終了しました。

多くの医療機関関係者から面接指導についての様々な悩みをお聞きしますが、本シンポジウムはそのような悩みを解決するヒントや、有効な面接指導とするための工夫などをうかがうことが出来た、大変貴重なプログラムでした。座長および演者の先生方、本当にありがとうございました。



## 『第98回日本産業衛生学会 ダイバーシティ委員会 フォーラム報告』

(東海地方会)

日本産業衛生学会 ダイバーシティ推進委員会 委員長  
ジャトコ株式会社

西 賢 一 郎

第98回総会における委員会フォーラムは、東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学の教授である瀬地山角氏より、「ジェンダー平等で持続可能な医療を」の基調講演でした。

冒頭に「男性は出産ができないものの、子育てには十分関われる」と述べられ、20年以上前から積極的に育児に携わってきた自身の経験をもとに、性別（生物的性差）ではなく社会的な役割（ジェンダー）の影響をわかりやすく講演されました。男性の家事・育児時間の短さに警鐘を鳴らし、共働き世帯でも、男性の家事時間は1日平均59分にとどまるが、女性はその約3倍に達している現状より子どもが「ママがいい」とよく言うのは、接する時間の差によることや高学歴の女性ほど、結婚相手に家事能力を求める傾向が強いが、男性側の家事意識は低く、これが結婚や出産のハードルを上げる要因であると挙げられました。日本の少子高齢化問題は、高齢者の労働参加促進や増加する離婚件数への対応といった現行制度の見直しが必要で、「みんなが働く社会」の実現が不可欠であること、男性の働き方への制度的配慮の重要性として育児と仕事の両立支援のため診療時間が短縮された医療現場の事例を挙げ、これらの問題は「女性だけ」の問題ではなく、「社会全体」の課題であり、男性が家事・育児を担うことで持続可能な社会への第一歩であると強調されました。

無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）の影響として、医学部入試における女性不合格問題、災害備蓄品から生理用品が漏れていること、公共施設で女性トイレに行列ができる設計ミスなどを挙げ、日本社会におけるジェンダーギャップの根深さを指摘。設計段階からの視点転換の必要性を強調され、組織や社会において女性比率を最低3割とする意義も言及されました。男女ともに生き方を見直す必要があると締めくくり、男女が共に支え合う「二頭立ての馬車」となる社会が、現代にふさわしい形であると提言されました。

講演後に女性のキャリア停滞や年齢制限の問題、性固定役割などの質問があり、マミートラックはやめて、能力評価へのシフトや男性の育休取得の社会的定着の必要性など提言されました。瀬地山氏自身の考え形成に、母親の影響があったことも紹介されました。最後に座長より、「社会的な役割という新しい視点が得られ、今の社会に必要な認識である」との総括がありました。各々の役割を果たすことは意外と身近にあると理論的なお話によって理解が深まりました。



## 産業医プロフェッショナルコース



### 『企画運営委員長交代のご挨拶』

日本製鉄株式会社 技術開発本部 長 谷 川 将 之

産業医プロフェッショナルコース（Pコース）は、初代企画運営委員長の浜口先生が2002年に開始され、産業医部会の主催のもと、労働衛生会館の後援を受けながら、今回で第30回を迎える研修会です。

二代目の加藤憲忠先生、三代目の山本誠先生からバトンを頂き、この度企画運営委員長を拝命しました。歴史ある研修会の企画運営委員長という責任に、身が引き締まる思いです。① 産業医としての「タイムリーな学びの場」、② 日ごろ孤軍奮闘となりがちな産業医のネットワークを最大化させる「つながりの場」、というPコースのならではの魅力を、エネルギッシュで多様な実行委員メンバーと共に、さらに磨いていけるよう励んで参ります。

最後に宣伝となりますが、Pコースではグループディスカッションを通じて学びを深めています。ハードルを感じられる方もいらっしゃるかもしれませんが、アウトプットにより得られる学習効果は高く、また、活動フィールドが異なる受講者同士でのワークにより、自己学習やレクチャーでは得られない多様な視点に触れることができます。深めれば深めるほど答えのない産業保健を、ともに学び、成長していきませんか？

多くの皆様のご参加をお待ちしております。



### 『実行委員長からのメッセージ』

ソニーピープルソリューションズ株式会社 菅 野 良 介  
健康開発部

このたび、今年度の実行委員長を拝命いたしました。歴史と実績ある本研修の中核を担うこととなり、その責任の重さを改めて感じております。

今年のテーマは働く人の「やりがい」「つながり」に、産業医はどこまで関われるのかと題して、ジョブ・クラフティングと職場の孤立・孤独を取り上げます。産業医として活動する中で、やりがいを失い不調をきたす労働者や、つながりのなさがストレスとなっている労働者と出会う場面もあるのではないのでしょうか。私個人は「産業医としてどのように向き合えばよいのか。どこまで踏み込んでいいのだろうか。」と悩んだことがありました。

明確な正解が見えにくいからこそ、講師の先生方の知見をヒントに事例や対応の工夫を共有しながら、参加者の皆さま、そして私たち実行委員も一緒に考えていきたいと思い、本テーマを設定しました。プロフェッショナルコースは、実践力を磨くだけでなく、経験や勤務形態を越えて“つながり”を育むことができる場です。安心して悩み、次の一步を踏み出す勇気を得られる機会となり、産業医としての“やりがい”を再認識するきっかけにもなるはずです。

今年も、よい学びと出会いにつながるよう、実行委員一同、心を込めて準備を進めております。

多くの皆さまのご参加を、心よりお待ちしております。

## 第30回 産業医プロフェッショナルコース開催のお知らせ



菅野良介



長谷川将之

主催 日本産業衛生学会 産業医部会  
後援 一般財団法人 労働衛生会館

実行委員長 菅野良介  
企画運営委員長 長谷川将之

本コースは、産業医の実務に役立つタイムリーな話題や研修機会を提供することにより、産業医の技能向上を目的とする研修プログラムです。参加された受講者間のネットワークが広がることも魅力の一つになっています。参加は、専属産業医、嘱託産業医を問いません。産業医として更なる成長を目指す意欲ある方の参加をお待ちしています。

1. テーマ：働く人の「やりがい」「つながり」に産業医はどこまで関われるのか  
研修目標：産業医による働く人・会社への関わり方は、単なる疾病予防から「いきいき働ける環境づくり」へと進化しています。しかし、働く人の「やりがい」や職場やプライベートでの「つながり」は多様であるゆえに、望ましい介入方法について悩むことはありませんか？そんな時に、エンゲージメント向上や離職防止の鍵として注目される2つの視点を持つことで、職場環境改善や労働者支援などを、より効果的な一次予防につなげることができるかもしれません。今回のプロフェッショナルコースでは、「ジョブ・クラフティング」と「職場の孤立・孤独」をテーマに、グループワークを通じて現場での実践に役立つ知識および実務への具体的な応用手法を学びます。
2. 開催日：2026年2月7日（土）～2月8日（日） 現地開催のみ
3. 会場：MELONDIAあざみ野 〒225-0003 神奈川県横浜市青葉区新石川1-1-9
4. 内容
  - 1日目(2/7) -  
講師：櫻谷あすか先生（東京大学大学院医学系研究科デジタルメンタルヘルス講座 特任講師）  
森永 雄太先生（早稲田大学グローバルエデュケーションセンター 教授）  
13:00-17:45 I 講演・グループワーク  
働く人のジョブ・クラフティングをどう支援するか  
18:30- 情報交流会（懇親会）
  - 2日目(2/8) -  
講師：関屋 裕希先生（東京大学大学院医学系研究科デジタルメンタルヘルス講座 特任研究員）  
9:00-12:00 II 講義・グループワーク  
「職場の孤立・孤独」にどう関わるか
5. 募集人数：40名
6. 受講料：日本産業衛生学会産業医部会員 25,000円（2日間コース）  
日本産業衛生学会会員(医師) 30,000円（2日間コース）
7. 受講修了者には修了証を産業医部会長名にて発行致します。
8. 申込方法等：下記のWebから申し込みをお願い致します。  
Pコース申込フォーム：<https://ws.formzu.net/dist/S46016214/>  
1)「必須」表示の項目は必ずご記入下さい。  
2) 情報交流会（懇親会）：初日プログラム終了後、情報交流会を行います。担当講師、運営スタッフも参加しますので議論や懇親を深めることができます。参加ご希望の有無をチェックして下さい。参加費用は9,000円です（コース受講料とは別）。
- 3) 申し込み事務局：(株)ヒューマン・リサーチ内産業医プロフェッショナルコース事務局  
〒160-0011 東京都新宿区若葉2-5-16向井ビル3F  
(株)ヒューマン・リサーチ TEL：03-3358-4001
9. 応募の開始と締切
  - ・応募開始（先着順受付とさせていただきますのでご了承ください）  
産業医部会員：2025年10月31日（金）9：00から  
非部会員（医師かつ学会員が必要）：2025年11月7日（金）9：00から
  - ・応募締め切り（部会員/非部会員を問わず）：2025年11月28日（金）17：00まで  
ア）締め切り後、参加決定者には事務局より受講料振込み等の必要書類を郵送致します。  
イ）2025年12月9日（火）を過ぎても連絡がない場合は、事務局までお問い合わせ下さい。
10. 補 足
  - 1) 本コースは「産業衛生学会専門医制度委員会」と連携しています。
  - 2) 本コースは専門医研修中の先生方に対する教育コースに認定されています。
  - 3) 本コースは、日本医師会認定産業医単位の発行はしておりませんのでご注意ください。



昨年度の研修風景

以 上

## 地 方 会 か ら の 報 告



## 『北海道地方会第27回産業保健研修会に参加して』

(北海道地方会)

さっぽろ駅前クリニック 横 山 太 範  
北海道リワークプラザ

3月だというのに前日までに大雪が降り、足もとが非常に悪い中であつたが、対面で多くの参加者が集まり、共に学んだ。

「医師の過重労働対策-産業医実地臨床」

三井記念病院精神科部長・中嶋義文先生は制度設計の段階から深く関わってこられており、広範な内容をわかりやすくお話しいただいた。

## 1) 医師の働き方改革における長時間労働医師面接指導

医師の働き方改革は、過重労働による医療の質と安全の低下を防ぎ、持続可能な医療提供体制を確立することを目的としている。長時間労働による医療ミスや医師の健康問題（メンタル不調・自死等）が深刻化する中で、労働時間の適正管理とタスクシフト・タスクシェアの推進が重要視されている。

長時間労働医師面接指導制度の実効性を確保するため、医療法が改正されており、2024年4月から施行され、記録・保存、適切な労働環境の提供が管理者の責任として明確化された。行政による立ち入り検査も実施される。また、睡眠負債の評価が義務づけられており、複数の評価方法を併用することが推奨される。

## 2) 過重労働対策としての産業医実地臨床の多様性

制度が開始されて約1年が経過し、実施の課題が明らかになってきた。最大の問題は適切なタイミングで面接指導を実施できないことであり、医師同士の時間調整が難しい。面接指導実施医師と産業医の連携不足も課題となっており、面接結果が産業医に共有されないケースが発生している。産業医が確実に関与できる体制を整える必要がある。大規模病院（例：東北大学病院）では、面接指導を効率的に実施するために、事務方が時間を管理し、面接が必要な医師に事前通知を送る仕組みを導入している。

面接では単に労働時間を制限するのではなく、医師自身のキャリア形成とのバランスを考慮しながら、過重労働の負担を軽減する必要がある。

## 3) 医師の健康維持のためのセルフケアや組織的取り組み

医師の健康維持に必要な3つの要素としては、臨床現場の効率化（タスクシフト・タスクシェアの推進）、病院組織の健康文化（働きやすい環境の整備）、医師個人のレジリエンス（回復力やストレス対処スキルの向上）などがある。また、産業医は単独で問題を解決するのではなく、病院の管理者や関連部門と連携して包括的な健康管理を推進する必要がある。「いきいき働く医療機関サポートWeb（いきサポ）」などの事例を活用し、具体的な改善策を学ぶことが推奨される。

最後に、「産業保健に関する労働関係法令等の概要について」のテーマで、北海道産業保健総合支援センター副所長・加藤順一氏から法解説を受けた。



研修会の様子





## 『東海地方会産業医部会懇話会に参加して』

(東海地方会)

愛知製鋼株式会社 栢 山 輔

2025年4月19日、産業衛生学会東海地方会医部懇話会がウインク愛知で開催され、参加しました。特別講演では、群馬大学大学院医学系研究科数理データ科学講座の内田満夫先生が「産業保健とAI」について講演されました。内田先生は、1960年代の第一次AIブームから現在の第四次ブームまでのAIの歴史を紐解き、日本の取り組みについても解説されました。医学分野では画像処理などでAIが既に実用化されていますが、産業保健分野ではまだ発展途上であることを知りました。産業保健分野でもAI研究に適したデータがある一方で、個人情報の取り扱いに注意しながら研究を進める必要があると感じました。今後、AIの利用が増えるにつれ、利用者がその活用方法やデメリットを理解することが重要だと感じました。

医部会員からの活動報告では、産業医事務所の新井孝典先生が産業医とオンラインの活用の現状、メリット、今後の課題について報告されました。オンライン面談をうまく活用することで効率的な活動が可能になる一方、画面越しでは伝わりにくい非言語コミュニケーションへの対応が重要であると感じました。

株式会社豊田自動織機の井山裕子先生は、産業医として活動を始めた4年間で学んだことや産業保健にかける思いを報告されました。私自身、循環器内科医として臨床からこの4月に産業保健に挑戦することになり、まだ短い実務期間ですが、産業保健の大変さに直面しています。井山先生の報告から、4年間諦めずに得られるものの大切さを教えていただきました。

最後に、ヤマハ株式会社の山本誠先生が奨励賞受賞講演を行いました。「眼光紙背に徹す」という言葉を聞き、ガイドラインやルールに従って判断していたことを再考し、その背後にある真意を読み取ることの重要性を痛感しました。

今回初めて産業衛生学会医部会に参加し、特別講演や会員の先生方の活動報告を聞き、産業保健分野の経験が乏しい私にとって非常に勉強になりました。



会場の風景



懇 親 会



## シリーズ は じ め ま し て !



## 『さあ、今日も共に戦おう』

(東北地方会)

えのきこどもクリニック 榎 真美子

私は夫婦で小児科診療所を営みながら、重症心身児病棟の業務、地域での学校医・園医、児童養護施設の嘱託医として、“こどもたちが育つ”という場面に携わってきました。こどもを育てる親御さんや学校の先生方、保育士さんたちも、未熟さや弱さを抱えながら日々奮闘し、ときには些細なことで心が折れることもあります。彼らもそして私も、決して完璧ではない、生身の人間なのです。

医療にはできることと、できないことがあります。それでも診療を通じて、今日よりも明日を少しでも良い日にしよう、一歩でも前に進もうとする“おとな”をどのように応援できるかと、考えるようになりました。

3人目を出産し、介護が一段落したのち、秋田大学医学部衛生学講座村田勝敬前教授のご指導の下、コールセンター労働者の職業性ストレスとライフイベント、健診結果の解析に取り組み、学位を取得しました。一方で、15年間学校医として学校保健安全法のもと教職員の健康管理に携わってきましたが、疲弊していく学校現場をただ眺めることしかできず、もどかしさを感じていました。

診療所は開業20年を迎えましたが、ここ数年、お子さんを連れてくるお父さんの割合が急増しています。一方、秋田県の年間出生数は2024年には3,282人、労働者人口の減少も加速しています。こうした数字や統計に心がざわつくことにも慣れてきたはずですが、一方、常に元気で前向きでいることの難しさを感じることもあります。

紆余曲折を経て嘱託産業医として、子育て世代を含む労働者と経営者を応援するという新たなステージにたどり着き、日々学ばせていただいています。5月の仙台での学会では、産業衛生に携わる皆様の熱気と集合知を肌で感じました。実行委員として関わることができたことや、有志の皆様と風薫る仙台の街を朝ランしたことは、かけがえのない思い出です。

私はサッカーJ2ブラウブリッツ秋田のサポーターですが、診療所には「さあ、今日も共に戦おう」というチームのスローガンを掲げています。この言葉はチームを鼓舞するだけでなく、患者さんやご家族を励ますメッセージでもあります。

私自身ライフイベントに翻弄されながら医師としての人生を歩み、勉強しても埋めきれない部分があることは否めません。それでも自分の力量を見誤ることなく、今後も長く産業衛生に関わっていきたいと思っています。どうぞご指導のほどよろしくお願いいたします。



診療所の外壁には、J2ブラウブリッツ秋田のマスコットのブラウゴンと  
“さあ、今日も共に戦おう”のメッセージ

## シリーズ 私たち頑張ってます！



## 『総括産業医2年生』

(近畿地方会)

大阪市 総務局 阿 部 朋 子

私は臨床医の傍ら大阪市の健康管理医と嘱託産業医を務めたのち、総括産業医となって2年目です。約2万人の職員の健康管理を担っております。体制としては、常勤の総括産業医2名、非常勤の健康管理医13名(うち精神科医5名)、嘱託産業医80名弱(主には医師会を通じて依頼)、総務局保健師7名です。

総括産業医になり、担当することになった業務を列举してみます。復職面接、管理監督者相談、嘱託産業医からの依頼面接、定期健診の緊急連絡該当者への対応、希死念慮を訴える職員への対応、研修の企画や講師、ストレスチェック(SC)の組織結果の分析&健康リスク値の高い職場の環境改善、惨事ストレス職場の職員への面接、共済組合とのコラボヘルスの推進、関係機関(市直営のカウンセリングルーム等)との連携、新規の嘱託産業医への業務説明などです。いずれも上級医や保健師とともに進めています。

現在、第4次「大阪市職員こころの健康づくり計画」策定に向けて評価・調整を行っています。新しい取り組みとして、総務局保健師による新採用者(約800人)保健指導、メンター制度との連携強化、高年齢職員の健康に関する情報提供、復職時の高次脳機能障害者への支援等を盛り込む予定です。メンタル不調による休職増、特に新採用者への対応が急務であるため、上記の新採用者保健指導は、今年度より前倒してスタートしています。

その他、長時間勤務職員に対する健康障害防止対策の一環として、安全衛生管理体制を強化するべく、今年度より産業医による勧告に関するマニュアルも整えました。また、来年度にはSCのウェブ化を実現させます。同時に問診項目も見直します。

上級医の出雲谷先生は、大阪市の総括産業医業務に留まらず、地方公務員安全衛生推進協会主催の自治体産業医研究会の幹事を務めています。他都市の取り組みを視察し大阪市に還元するとともに、地方公共団体に勤務する産業医間の連携に向けて長年奔走されています。自治体産業医のネットワークが構築され、今秋、地方公共団体に勤務する産業医を対象とした自治体産業医研究会を開催する運びとなっています。

目の前で飛び交う産業保健特有の言語や行政の職員としての振る舞いは、まるで文化の違う外国にのようなものです。まだまだ戸惑うこともありますが、ひとつひとつ丁寧に成長していける環境に感謝する毎日です。



筆者と大阪市産業保健スタッフ

## 部会員からのお便り



## 『大阪・関西万博へ行ってみませんか!』

(近畿地方会)

大阪ガス株式会社 人事部 安全健康推進チーム  
Daigasグループ 健康開発センター

濱 田 千 雅

2025年日本国際博覧会(略称「大阪・関西万博」)が、4月から海に囲まれた“夢洲”で開催されています。1周約2km世界最大規模の木造建築は有名ですが、それ以外にも40強の海外パビリオン、4つの国内パビリオンと13の民間パビリオン、シグネチャーパビリオンなど体験型のパビリオンもあります。

弊社も一般社団法人日本ガス協会が出展する「ガスパビリオン おばけワンダーランド」(以下、ガスパビリオン)の建設運営に関わっています。

Daigasグループでは、2021年1月に、「Daigasグループ カーボンニュートラルビジョン」、その後、「Daigasグループ エネルギートランジション2030」を発表し、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、エネルギーの安定供給・保安の確保と、エネルギーのカーボンニュートラル化の両立を目指した取り組みを進めております。

## 【ガスパビリオンの特徴】

最大高さ約18mの三角形断面の特徴的な空間をもつ建物です。膜材には放射冷却素材の「SPACECOOL」を使用し、室内温度上昇の軽減や室内空調の冷房負荷の低減により、省エネ・低炭素化に貢献しています。

## 『おばけ(o^—^o)→化ける!』

\*「SPACECOOL」; [https://www.daigasgroup.com/rd/topic/1310161\\_53539.html](https://www.daigasgroup.com/rd/topic/1310161_53539.html)

## ①建物の表情が「化ける」

天候や時間帯、見る位置などによって、様々な表情に変化します。また夜間はライトアップによって、未来を灯す「カーボンニュートラルな炎」を表現します。

## ②3Rで「化ける」

外壁を膜構造にすることによる建築資材の削減(Reduce)、構造材のリース活用による再利用(Reuse)、廃材の再資源化(Recycle)等を推進しています。万博終了後も形を変えて「化ける」パビリオンを目指します。

万博チケットは朝から入場できるもの以外に、17時からのリーズナブルな価格帯のものもあり、夜のパビリオンのライトアップも美しく、噴水ショーや21時から1000機以上のドローンが織りなす光の演出



Gasパビリオン

ドローンショーが行われ、夜空に夢が浮かびます。今回は「火星の石」や心筋シートiPS細胞も実際トクトク動いているのを見ることができます。普段なじみの少ない中東の国々のパビリオンも多く、食文化やアートも楽しめると思います。ぜひ、訪れてみませんか。夕方からでも充分楽しめます。10月13日までの開催です。



## 医 部 会 新 任 幹 事 の ご 挨 拶



## 『幹事就任のご挨拶』

(東北地方会)

東日本旅客鉄道株式会社 竹 澤 公 子  
仙台健康推進センター

このたび、産業医部会幹事を拝命いたしました、東日本旅客鉄道株式会社の竹澤と申します。前任の菅原保先生の後任としてご推薦いただき、身の引き締まる思いです。このような機会をいただきました東北地方会長の黒澤一先生、幹事の各務竹康先生をはじめ、東北地方会の諸先生方に心より感謝申し上げます。

2025年5月、日本産業衛生学会総会(仙台)は無事終了いたしました。企画運営委員長の黒澤先生、事務局長の色川先生を中心に、東北地方会は少人数ながらも一致団結し、総会を盛会に導くことができました。私は準備の途中から企画運営委員として参加させていただき、毎月の運営会議や当日の役割分担を通じて、貴重な経験をさせていただきました。懇親会の司会進行を担当いたしましたが、緊張しつつも、多くの先生方が食事や出し物を楽しまれている様子を拝見し、大変嬉しく感じました。東北の名酒20本もすべて空になっており、皆様にご満足いただけたのではないかと考えております。今回の学会への関わりを通じて、参加意欲も一層高まり、来年度の大阪での総会も今からとても楽しみにしております。

簡単に自己紹介をさせていただきます。私は宮城県の高校卒業後、医師を志して産業医科大学に入学いたしました。大学での講義や、3年次の研究室配属を通じて産業医学に触れる中で、働く人々にアプローチすることの魅力を感じ、卒業後は産業医科大学産業生態学研究所産業保健管理学教室に入局いたしました。初期臨床研修を経て、現在勤務しております東日本旅客鉄道株式会社(仙台)にて1年間の産業医学修練を行い、その後、産業保健管理学教室にて2年間、研究と嘱託産業医業務に従事いたしました。研究テーマは騒音障害防止に関するもので、聴覚保護具の着用練習による遮音値の違いについてまとめました。現在も、騒音の個人ばく露測定の実施など、教室の先生方のご支援をいただきながら研究を継続しております。また、騒音障害防止研究会の世話人も務めておりますので、ご興味のある方はぜひご参加ください。

今後は、産業医部会および東北地方会のさらなる発展のため、微力ながら尽力してまいりたいと存じます。何卒ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

山形蔵王のロープウェイから  
樹氷時期がおすすめです

## 『幹事就任のご挨拶』

(関東地方会)

株式会社朝日新聞社 コーポレート本部 伊 東 明 雅  
労務部(健康管理)

このたび、産業医部会幹事を拝命いたしました、朝日新聞社の伊東明雅と申します。ご推薦頂いた谷山佳津子先生に心より感謝を申しあげます。

私は慶應義塾大学医学部を卒業後、同大学病院内科で初期研修を修了、在米生活を経て、2005年より都内複数の企業で産業医活動に従事してまいりました。当社には2020年より東京本社産業医として勤務し、東日本の総支局員や海外特派員を含む約2500名の健康管理に携わっています。

東京本社は中央区築地に地下4階・地上16階の本館ビルを構えています。屋上にはヘリポートがあり、時に、航空部員の操縦するヘリコプターが慣熟飛行で離着陸を行う轟音が鳴り響きます。地下には築地工場を備え、輪転機を稼働させて新聞印刷を行っています。築40年が過ぎて職場のリノベーションやフリーアドレス化が進み、毎月の職場巡視では一つとして同じ光景を目にすることはありません。総合メディア業として新規事業立ち上げや組織改編が盛んであり、夜勤・シフト勤務や在宅勤務の活用など社員は多様な働き方をしています。女性社員の増加もあり、男女別の宿直室や休養室も大切な巡視対象となります。

昭和の香りが漂う健康管理部門のフロアは社内診療所を擁し、大学からの派遣医師と連携が可能です。「職

種のデパート」といわれる新聞社の産業保健活動は多岐にわたり、保健師チームや診療所スタッフ、人事・労務部門等との協働が欠かせません。産業医部屋から遠景にレインボーブリッジを望み、隣接する築地市場跡地の再開発工事に目をやりながら、大変革期である新聞社で健康管理の最適化を考える日々を過ごしています。

関心領域として、「職域におけるアルコール対策」推進がライフワークとなりつつあり、社内外で普及啓発活動を行っています。昨年の全国協議会（第34回、木更津）では関連テーマでシンポジウムを企画・運営し、本年6月には分担執筆した『どうする？ 職場のアルコール問題対策』（金子書房）が出版されました。就労世代への啓発・支援の輪を広げるべく、アルコール医療の専門家らと意見交換を重ねています。

本学会においては関東地方会産業医部会幹事、関東地方会学会準備委員会委員、災害産業保健研究会世話人等を務めています。皆さまのご指導を仰ぎながら、産業医部会員また職種を超えた会員のニーズに応えていけるよう尽力したいと考えています。何卒よろしくお願い申し上げます。



パムツカレにて気球と



## 『幹事就任のご挨拶』

(九州地方会)

日本郵政コーポレートサービス株式会社  
九州郵政健康管理センター 熊本分室

成 田 彩

この度、産業医部会の幹事に就任いたしました日本郵政コーポレートサービス株式会社の成田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

弊社は日本郵政グループ(日本郵便株式会社、株式会社ゆうちょ銀行、株式会社かんぽ生命保険)に産業保健サービスを提供しています。私が所属する九州郵政健康管理センター熊本分室は、熊本城のお膝元に位置し、産業医1名、保健師3名で熊本県内約6500人の健康管理を行っています。郵便局は非常に分散しているのが特徴で、全国に20,000箇所以上、熊本県内だけでも約400箇所の事業所があります。その中で、職場巡視が義務づけられている労働者50人以上の事業所は30箇所ほどで、残りの370箇所の事業所には、なかなかお伺いする機会がありません。

しかし、ユニバーサルサービスを担う郵便局に対して、事業所の規模や距離にかかわらず、できるだけ均一な産業保健サービスを提供できるように試行錯誤しています。ハイリスクアプローチや希望者への面談については、ICT(ZOOM)を用いた面談を積極的に行い、ポピュレーションアプローチとしては、メールにて送付する情報誌、社内限定公開のYouTubeで視聴できる動画作成など、産業保健スタッフを身近に感じていただけるような取り組みを行っています。また、熊本地震や九州南部豪雨災害などの災害発生時や、強盗事件や大きな事故などが発生した時は、どんなに離れている事業所でも直接出向き、社員と対面で話す機会を作っています。マンパワーに限りがあり、思うようにいかないこともありますが、今後も社員と繋がる方法を模索していきたいと思います。

コロナ禍では、学会参加もオンデマンドとなり、移動時間がない、自分の都合が良い時に視聴ができるなど、とても便利であった反面、視聴が自分の興味のある内容に限られてしまう、他の先生方と交流ができないなどのデメリットがありました。2024年度に数年ぶりに現地参加し、久しぶりにお会いする先生方と何気ない会話をすることがとても励みとなりました。

幹事としての活動を通して、活発な学会運営に少しでも貢献できればと思います。至らない点も多いと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



私のポストコレクション 左から熊本駅内郵便局、KITTE博多、植木郵便局、熊本中央郵便局(クリスマスVer.)

## 産業医部会、各地方会 行事開催予定一覧(2024 年 8 月～2025 年 2 月)

開催年月	主催・イベント名等			日時・開催地
2025 年 8 月	会報 第 84 号(2025 年 8 月号)発行予定			
	産業衛生専門医 制度関連	日本産業衛生学会 専門医試験		2025 年 8 月 30 日(土)～31 日(日) パナソニックリゾート大阪 (大阪府吹田市)
9 月	社会医学系専門医 制度関連	社会医学系専門医制度 専門医試験		2025 年 9 月 6 日(土)筆記試験 7 日(日)口頭試験
10 月	2025 年度 第 3 回産業医部会幹事会			2025 年 10 月 11 日(日)9:00-
	日本産業衛生学会	北海道地方会	2025 年度 日本産業衛生学会 北海道地方会総会	2025 年 10 月 18 日(土)10:30-17:00 かでの 2・7(道民活動センター) 札幌市中央区北 2 条西 7 丁目
	産業医部会	近畿地方会	第 30 回 近畿産業医部会 研修会	2025 年 10 月 25 日(土) 14:00-16:40(受付開始: 13:00-) 場所:国民會館(天満橋駅徒歩 6 分) <a href="https://www.kokuminkaikan.jp/hall">https://www.kokuminkaikan.jp/hall</a>
	日本産業衛生学会	北陸甲信越 地方会	第 68 回総会・学術 集会	2025 年 10 月 26 日(日)10:00-15:40 (前日企画同 25 日(土)14:30-16:30) 甲府市歴史文化交流施設 「こうふ亀屋座」(山梨県甲府市)
11 月	産業医部会	関東地方会	関東産業医部会 産業医研修会	2025 年 11 月 8 日(土)14:00-18:15 東京慈恵会医科大学 大学 1 号館 6 階講堂
	日本産業衛生学会	近畿地方会	第 65 回近畿産業 衛生学会	2025 年 11 月 8 日(土) ドーンセンター (大阪市中央区)
		九州地方会	2025 年度日本産業 衛生学会 九州地方会学会	2025 年 11 月 7 日(金)～8 日(土) 沖縄産業支援センター (沖縄県 那覇市)
	第 35 回日本産業衛生学会 全国協議会			2025 年 11 月 27 日(木)～29 日(土) あわぎんホール (徳島県徳島市)
	第 35 回全国協議会 産業医部会 自由集会			2025 年 11 月 27 日(木)18:00-19:00 あわぎんホール (徳島県徳島市)
	2025 年度 第 4 回産業医部会幹事会			2025 年 11 月 27 日(木) (徳島市)
	社会医学系専門医制度 協会認定講習	指導医講習会		11 月 27 日(木)17:00-18:00(予定) あわぎんホール (徳島県徳島市)
		専門医制度説明会		11 月 28 日(金)16:10-17:10(予定) あわぎんホール (徳島県徳島市)
12 月	日本産業衛生学会	中国・四国 地方会	第 69 回中国四国 合同産業衛生学会	2025 年 11 月 29 日(土) あわぎんホール (徳島県徳島市)
	会報 第 85 号(2025 年 12 月号)発行予定			
2026 年 2 月	第 30 回 産業医プロフェッショナルコース			2026 年 2 月 7 日(土)～8 日(日) MELONDIA あざみ野(現地のみ) (横浜市青葉区)



内容等	その他
資格審査受験申込受付期間：2025 年 5 月 1 日～31 日 (消印有効)	詳細については日本産業衛生学会専門医制度委員会 HP ( <a href="https://ssl.jaoh-caop.jp/">https://ssl.jaoh-caop.jp/</a> ) にてご確認ください。
筆記試験は全国各会場にて C B T 方式にて開催 口頭試験は完全オンラインにて開催	詳細については社会医学系専門医制度協会 HP に ( <a href="http://shakai-senmon-i.umin.jp/">http://shakai-senmon-i.umin.jp/</a> ) に掲載予定
オンライン開催	
教育講演「ストレスチェック制度の現状と成果、今後の方向性」 川上 憲人(淳風会/東京大学) シンポジウム「明日から役立つ職場の腰痛予防対策―人間工学、運動指導の立場から―」榎原 毅(産業医科大学 人間工学研究室) 他	詳細が決まり次第、随時 北海道地方会 HP に掲載いたします。 ( <a href="https://sites.google.com/view/jsohhokkaido/home">https://sites.google.com/view/jsohhokkaido/home</a> )
【テーマ】疲労と就労：科学的評価と実践(産業医単位:2.5 単位) 基調講演①「疲労科学と脳神経科学にもとづく科学的評価の視点から」 水野 敬(大阪公立大学健康科学イノベーションセンター 特任教授/センター副所長) 基調講演②「労働者の疲労と評価の視点から」 久保 智英(労働安全衛生総合研究所 過労死等防止調査研究センター) シンポジウム「現場での疲労評価と実践(15 分)」 内山 鉄朗(かんさい産保サービス合同会社) ディスカッション(40 分):「産業保健に求められる疲労評価とその実践～将来的に求められる疲労評価とその対策とは?～」実行委員長:黒木 和志郎(パナソニックエレクトロニクス門真健康管理室)	詳細は日本産業衛生学会近畿地方会 HP、産業医部会タブからご確認ください。
学会長:鈴木 昌則(山梨県医師会長) 特別講演 1「働く女性と産業保健」吉野 修(山梨大学 産婦人科) 特別講演 2「A I を用いた先制医療と産業保健との共創」大岡 忠生(山梨大学社会医学講座) 他、一般口演・総会 (前日企画:「360 度動画を用いた職場巡視体験実習」)	詳細は北陸甲信越地方会 HP に掲載いたします。 ( <a href="http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/chair/pmph/sanei_chihoukai/index.html">http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/chair/pmph/sanei_chihoukai/index.html</a> )
テーマ: 前半 がん治療と仕事の両立支援をテーマに 2 演題 後半 熱中症対策を軸に、働く人の健康管理にフォーカスをあてた 2 演題	詳細は 8 月に日本産業衛生学会関東地方会 HP に掲載予定。
テーマ:生涯現役社会に向けた産業保健の取り組み 学会長:西田和彦(長谷工クリニック)	詳細は専用サイトでご確認ください。 ( <a href="https://jsoh-kinki.jp/jsohkinki-64/">https://jsoh-kinki.jp/jsohkinki-64/</a> )
テーマ:労働者の健康づくりと健康管理を考える 大会長:中村 幸志(琉球大学大学院医学研究科)	詳細は、以下の HP をご確認ください。 ( <a href="https://sites.google.com/view/jsohokinawa2025/">https://sites.google.com/view/jsohokinawa2025/</a> )
メインテーマ:「すべての労働者が元気に働ける産業保健をめざして」 企画運営委員長:斎藤 恵(徳島県産業保健総合支援センター所長/日亜化学工業株式会社産業医)	詳細が決まり次第、第 35 回日本産業衛生学会全国協議会 HP に掲載いたします。 ( <a href="https://sanei-kyougikai35.com/">https://sanei-kyougikai35.com/</a> )
テーマ:「求められる産業医になるために、目指すものとは」 演者 真鍋 憲幸 三菱ケミカル株式会社 広島事業所 深井 恭佑 株式会社リードウェル 長谷川 将之 日本製鉄株式会社 指定発言 宮本 俊明(産業医部会 部会長) 座長 塩田 直樹(中国地方会)/杉原 由紀(四国地方会)	詳細が決まり次第、第 35 回日本産業衛生学会全国協議会 HP に掲載いたします。 ( <a href="https://sanei-kyougikai35.com/">https://sanei-kyougikai35.com/</a> )
全国協議会 現地にて開催。	
詳細未定	詳細未定
詳細未定	詳細未定
テーマ:「メンタルヘルスケアの充実に向けて」 学会長:森岡 久尚(徳島大学公衆衛生学分野 教授)	詳細は第 69 回中国四国合同産業衛生学会 HP をご確認ください( <a href="https://sangyoeisei.wixsite.com/69thchugokushikoku">https://sangyoeisei.wixsite.com/69thchugokushikoku</a> )
テーマ:働く人の「やりがい」「つながり」に産業医はどこまで関われるのか 実行委員長:菅野良介 企画運営委員長:長谷川将之	詳細は、本誌「第 30 回 産業医プロフェッショナルコース開催のおしらせ」をご確認ください。

## 編 集 委 員 会 よ り お 知 ら せ

### (1) 医部会報における二重投稿（著作物）の考え方

一般的に、新たな創作性の認められない①ありふれた表現 ②歴史的事実やデータ ③事実の伝達にすぎない報道等 ④法律や裁判所の判決等 などは著作物にあたらないとされています。したがって、編集委員会としては、他媒体に既掲載のものと一言一句、同一の原稿は二重投稿と判断しますが、事実記載が一部同一であるだけでは二重投稿とみなしません。投稿者が判断に迷う場合は、申し出に応じて、編集委員会で個別に審議のうえ判断します。また著作物（文章・画像）を医部会報へ転載・引用する場合は、著作者の許可を得るか、引用を明記して、許可・引用の範囲内で適切に使用してください。

参考：（公社）著作権情報センター（CRIC）<https://www.cric.or.jp/qa/hajime/hajime1.html>

### (2) 部会員からのお知らせコーナー ご活用ください

学会や研究会など部会員の関わる行事の告知や書籍紹介など、情報の周知を目的としたコーナーです。掲載ご希望の方は、事務局宛てに原稿（字数400字程度＋写真1枚）をメールでお送りください。なお掲載に関しては、医部会活動目的に照らし編集委員会にて審議のうえ決定させていただきますので、ご了承願います。（自著の紹介は、COIの観点からご遠慮願います）

### (3) 自由投稿を歓迎します

部会報は部会員の交流の場です。編集委員会として、より多くの皆様のご意見などを紹介したいと考えています。1,000字程度にまとめ、事務局宛てメールにて、ご送付ください。

### (4) バックナンバーは産業医部会ホームページにて公開しています。

<https://sangyo-ibukai.org/kaiho.html>



### (5) ご意見をお待ちしています

皆様のご期待に沿えるよう、より一層誌面の充実に努めてまいります。ご意見や企画案など、是非、事務局までお知らせください。

【事務局連絡先】（公社）日本産業衛生学会 産業医部会事務局

Eメール：sanei4bukai@nifty.com TEL：03-3358-4001 FAX：03-3358-4002

## [産業医部会報企画：熱中症予防対策に関する疑問・質問を募集！]

職場の熱中症対策について、疑問や課題はありませんか？今回、部会報編集委員会では、皆様の熱中症予防に関する疑問・質問を広く募集します。「こんな時どうすればいいの？」「この対策は本当に有効？」といった具体的な疑問から、「最新の予防策は？」といった質問まで、幅広く受け付けます。

ご質問は以下のリンクまたはQRコードよりお寄せください。お寄せいただいた質問は、編集委員会に取りまとめ、医学的・労働衛生学的な見地から回答いたします。皆様からの活発なご質問をお待ちしております！

<https://forms.gle/UY3zzdBgWBpj31Mc7>



## 編集後記

今回も大変充実した会報となり、とても楽しく拝読させていただきました。執筆ご協力いただいた先生方、ありがとうございます。「学会100周年」の文字も多く目にし、いよいよ、と感じました。そんな中、私事で恐縮ですが、今回を最後に、本部会編集委員を卒業させていただくことになり、編集責任者の西澤先生のご厚意でこの場を用意いただきました。

先日、映画「フロントライン」を見てきました。ご存知の方も多いと思いますが、新型コロナの流行初期、3,000人乗客のクルーズ船での感染対策現場を描いた作品です。すでに5年経過して記憶が薄れつつある中、行政、医療従事者が表に立ちつつ、誰も悪くないのに非難し、非難しあい、多くの国民が犠牲になったことを思い出しました。本会報でも幾度か関連記事になりました、今となれば悪いことばかりでなく、得たものも多いかと思えます。本部会報の益々の発展を祈念しつつ、今後も「楽しく」「笑顔」をキーワードに本部会・学会活動に貢献していきたいと思えます。

（石川 浩二）

## 編 集 委 員 会 委 員

池 上 和 範（桜十字福岡病院）  
伊 東 明 雅（朝日新聞社）  
西 賢一郎（ジャトコ）  
濱 田 千 雅（大阪ガス）

石 川 浩 二（三菱重工）  
○西 澤 依 小（JR西日本）  
◎原 俊 之（北海道労働保健管理協会）  
真 鍋 憲 幸（三菱ケミカル）

◎：委員長、○：第84号編集担当（五十音順）